全盲の佐々木さんと共に歩んだ挑戦への道のり

ガイド役　**浅井 裕史**

挑戦のきっかけは、5年前（2019年12月）のクリスマス「トライアスロンに挑戦したい」「一緒に練習していただけませんか」視覚障がいの佐々木一明さんからの一本の電話で挑戦は始まりました。

障がいのある方とスポーツをすることは初めて。どのように何に気を付けるのか、声掛け、スピード、リズムなど練習内容は不安でしたが、徐々に練習が楽しくなり週末が待ち遠しくなりました。

また佐々木さんが明るく前向きな性格であることが一番の救いとなり、練習を重ねる度に、障がいのあることを忘れてしまうほど心配も無くなりました。手探りで始めた練習も定着し、基本毎週日曜日の午後4時から2時間程度の練習を行っています。八幡浜の仲間も加わり3・4人で楽しく5年近く続けてます。練習環境は信号無し、適度な勾配、自然にも恵まれた八幡浜諏訪崎県立自然公園周辺です。その成果もあり水泳1.5km、ラン10km、自転車40kmのレースに向け、体力気力ともに充実し、二人でゴールできるイメージをもつことができました。練習開始から5年近くとなり、二人で1，500mトラック記録会や伊方町のハーフマラソンにも参加しています。

令和6年は、二人の自信もついてきたので、ほかのトライアスロン大会も挑戦してみる事となり、6月1日(土)開催の愛南町の大会に参加しました。

中島大会では、NONちゃん倶楽部の精鋭メンバーにサポートしていただき安心ですが、愛南大会はサポート無しの2人での参加です。

色々な練習を積んで二人でなんとかなるだろうと自信がある一方で、やはり不安も少しある中で挑戦しました（二人ともなんとかなるだろう的な楽観型性格ではありますが）。

スイムは他の選手を見送って最後の方からゆっくりスタート。私の中では一番不安が残るスイム。胴体に結んでいる命綱のゴムが伸びるたびに、二人は離れている、近づいてぶつかると近づきすぎ等々、そのたびにヘッドアップして方向を確認して軌道修正しながら、私と佐々木さんは進行方向を確認してバシャバシャと泳ぎます。

今回、バイクはコース上、危険と判断されスキップ（バイク無し）します。

先頭選手が通過後、約30分待ち、ようやくランスタート、二人でガイドロープをもって「イチニ、イチニ」と走ります。余裕をもって、無理をしないというか二人とも楽しんで走ります。また沿道の皆さんの応援の声が良い。山道以外はほぼ途切れることのない声援に感謝し二人で無事ゴールしました。なんといっても二人以外のサポート無しで完走できたことが収穫の愛南大会でした。

さて、中島。愛南大会の自信もあり、二人で意気揚々と出発。レースは炎天下の中、スイムでスタート（真木さん、森さんによるサポートあり）、想定はしていましたが直後は大変でした。

避けたつもりが、一斉にスタートするので、二人の左右や前後に選手が居て体当たり。ゴムロープで胴体を結んでいる二人の間を泳ぎ抜き去る速いスイマー、ロープに引っかかる方（全て故意ではないですが）など今回もありましたが、まずまずのスイムを終え無事、上陸です。

続いてバイク。陸に上がれば自信があったので、多くの声援の中、抜きつ抜かれつ、楽しく気持ちよくバイクは走ることができました。

最後はラン。いよいよ今年もあと少しで終わるのか、と感傷の思いに一瞬ひたりつつスタート。そこに陣取るNONちゃん倶楽部応援団の声援。もうひと頑張り、勇気づけられペースアップ。調子が良いと張り切りすぎたか、佐々木さんがエネルギー切れ。何度か歩きつつも励まされ、沿道の応援とサポートの中学生ボランティアの声に、力が湧き苦しい局面を乗り越え、ゴールはみんなで一緒に笑顔で乗り越えることができました。

約5年間。これまでの練習過程や多くの方々の支援、テレビ愛媛取材班の皆さん、ここまでの過程が蘇りました。今回、無事に佐々木さんとゴールすることができたことは、一つの通過点であります。

今年はパリオリンピック、パラリンピックが開催されました。様々な障がいのある方が挑戦する姿に、なぜか涙が流れ、熱いものがこみ上げてきました。これは何？この5年間の取組と関係があるのか？わかりませんが、障がいのある方と関わり挑戦したことが、私の視野を広げてくれたことはまちがいありません。

障がいのある方に対する意識が低かった、無関心だった私にとって、貴重な体験です。これからも関わり続けたいと思います。

始まりは、NONちゃん倶楽部の二人乗りタンデム自転車のパイロットからでした。様々なイベントを通して、多くの方々との関わりから何かが生まれる貴重な体験。様々な障がいのある方がいらっしゃいますが、関わることで、バリアを外し、バリアフリーとし、誰もが安心して、暮らしやすい町づくりにつながれば良いなと思います。このような関わりを持たせてくれた、津賀さんNONちゃん倶楽部と関わっていただいた全ての皆様に感謝を申し上げます。

風を体感 障害者後押し

社会部門　タンデム自転車NONちゃん倶楽部

複数人乗りのタンデム自転車の体験や普及活動に取り組む認定NPO法人「タンデム自転車NONちゃん倶楽部」は、障害者の挑戦を後押ししている。津賀薫理事長(72)は「多くの人の力が結集しての活動が認められてうれしい」と受賞を喜ぶ。

愛媛でタンデム自転車の公道走行が可能となった2010年8月1日に設立。県内各地でのイベントを通じ、自転車に乗ることをあきらめていた障害者にペダルを踏んで風を感じる機会を提供してきた。23年は脳性まひで手足に障害がある高校生らが瀬戸内しまなみ海道の約70㌔のコースをタンデム自転車で走破。視覚障害の男性がトライアスロン中島大会で完走するといった成果もあった。

活動を支えるのは「どうやったら障害者の夢が実現するか」を常に考える姿勢と、年間延べ約600人にも及ぶボランティアの存在だ。津賀理事長は「こちらの要望を幅広く受け入れ、喜んで協力してくれる人たちのおかげ」と感謝する。

「次はタンデム自転車での琵琶湖一周」と目標を語る津賀理事長。「心のバリアフリーはお互いに理解し合うことから始まる。人同士の優しさが自然に引き出され、障害の有無に関係なく対等な関係が築ける社会にしたい」と力を込めた。

（杉本賢司）

タンデム自転車NONちゃん倶楽部のイベントで記念撮影する参加者ら。最前列右から4人目が津賀薫理事長

▲愛媛新聞賞

1月1日発表　1月10日 表彰式

【愛媛新聞社提供 2024年1月1日付掲載】

※詳細は3ページに掲載

地域再生大賞 優秀賞

1月28日発表　3月6日 表彰式

※詳細は3ページに掲載

愛媛銀行ふるさと振興基金

9月26日　贈呈式

翼学園様・小松フリューゲル・コール様・八幡神楽垣生神楽部様と共に選んでいただき感謝です

障がい者スポーツ協会 育成指導者部門優秀指導者賞

3月15日 表彰式

優秀選手賞 石丸翔君・高橋桜流ちゃん・妻鳥和恵さんと同席できた幸せ

＊ことば漢字創作家 いとうさとしさんの「ありがとう」で描いた『喜』

愛媛県木造住宅耐震改修実績 愛媛県内1位（平成27年3月時点）
耐震補強はびるりにおまかせ！
国土交通省基準に準じた耐震診断！
まず耐震診断
水廻りが古い！　柱が白蟻に！　雨漏れしている！　床の傾きが！
新築・増改築・リフォーム まることびるりにおまかせ！
住まいのお困りごと！何でもご相談ください！
住まいの町医者 株式会社びるり Build & Reform
愛媛県松山市宮西1丁目4番43号
0120-07-7676　びるり　検索

伊予あぐり茶
農薬・化学肥料不使用農産物 愛媛産
Going Green
はじめませんか？「プチロハス」
お茶碗1杯　お米3000粒　種3粒　カエル30匹　サギ1羽　save our planet
（およその数字です。）
お茶碗一杯のごはんを食べることは虫・カエル・鳥を育てる行為につながっています。
もちろんそれは、より自然に近い健康な田んぼでのお話。だから私たちは、農薬・化学肥料を使わないのです。
田んぼの町医者 農業生産法人あぐり
愛媛県伊予郡松前町北川原 79-1
TEL089-984-3617　あぐり　検索

インフラの町医者 IKEE 愛亀グループ
愛亀 路（道路・管路）の町医者
トータス・グリーン Re（リサイクル）の町医者
アイル太平洋生コン コンクリートの町医者
加賀工業 省エネの町医者
あぐり 田んぼの町医者
びるり 住まいの町医者
游亀 緑の町医者
中予砕石 石材の町医者
愛亀産業 不動産の町医者
IPS アジアに架けるインフラの町医者

〒799-2662
松山市太山寺町880の1
岡田歯科医院
tel.089・979・6482

雁飯店 中国副菜 大岩
松山市木屋町2-7-20
089-922-7122
各種ご宴会承ります

有限会社 明和プランニング
宅地建物取引業　愛媛県知事（7）第4169
代表取締役　河原 昭二
〒790-0855 松山市持田町一丁目2番10号
TEL (089) 931-2011　FAX (089) 931-2022
E-mail　meiwa@gem.e-catv.ne.jp